

# 福島復興と東京オリンピック

## 飛田晋秀 講演会

2月8日(土)午後1時半～

さばえ NPO センター (鯖江市長泉寺町 1-9-20 )  
入場無料



2011年の東日本大震災、東京電力・福島第一原発事故から9年の今年、東京オリンピックが開催されます。安倍首相は、オリンピック1年前セレモニーにて「2011年、日本は、東日本大震災によって甚大な被害を受けました。その中で、世界中の皆様から御支援を頂きながら、一步一步、復興に向けて前進してまいりました。(略)未曾有の大災害から復興を成し遂げつつある東北の姿を、世界中に発信していきたいと思っております」と述べました。そうした首相の意向を受け、メディアを通じ、“オリンピックムード”が高められています。

前向きなムードの影で、福島県の方の避難者数は、今なお41,000人を超えています(県内避難:10,312人、県外避難:31,104人 福島県災害対策本部 2020年1月10日)。また、福島第一原発の排気塔の解体もオリンピックに向けてピッチを上げて進められていると報じられています。

福島の復興はどのように「進んで」いるのか? 福島の人たちはオリンピックをどう考えているのか? 福島で暮らしながら写真で記録し続けている飛田晋秀さんから福井の人たちに伝えていただきます。



避難指示区域 (2019年4月10日時点) 出所: ふくしま復興ステーション

主催: サヨナラ原発福井ネットワーク  
問合せ: 090-7083-8921 (若泉)  
<http://www.sayonaranppf.com/>

飛田晋秀: 1947年生まれ 福島県田村郡三春町出身・在住。元々は日本の職人の撮影を専門とするプロ・カメラマン。3.11後、「事故を風化させない」「事故後の状況をありのままに知ってほしい」との思いから福島を撮影し続ける。写真展、講演会を地元福島をはじめ全国で行っている。